

広 報 17号

発行年月日
令和3年2月1日
発行責任者
佐々木 孝昭
印刷所 (株)中村印刷



— 昨年のふれあいフェスタ風景

コロナ禍に思う

会長 佐々木孝昭



新年明けましておめでとうござい
ます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症により
世界中が大混乱となりました。

日本も感染が拡大して終息が見え
ません。

また、コロナ禍で日本の弱点も浮
き彫りになりました。

有事の際の医療体制が縦割りで連
携ができない仕組みになっていて医
療従事者に大きな負担をかけていま
す。少しでも負担軽減に協力するに
は、自身の感染予防の徹底と他人に
うつさないことを徹底し、医療崩壊
を防ぐことだと思います。

昨年は、国内のイベントがすべて
中止となつて、世の中が一変してし
まいました。

私たちの市民委員会においても、

さまざまな活動を自粛しなければな
りませんでした。特に十一町内の会
員が集い、交流と親睦を目的とした
一大イベントである恒例の「ふれあ
いフェスタ」の開催を断念したこと
は非常に残念でありました。

今後、ますます地域での助け合い、
協力が必要と思われる時代になるの
ではないかと思えます。

コロナ終息が見えない中、自分自
身で出来ることを考えて、行動する
ことが重要だと思えます。

今年一年も、皆さん宜しくお願ひ
申し上げます。

旭川市自治振興発展功労表彰者

この表彰は十年以上町内会の部長役員等
を務め、地域にご尽力頂いた方が対象と
なります。

- 後藤 勉(東明石山)
- 庄野 純 二(東明石山)
- 神野 務(東光5の北)
- 広谷 精子(東光真和)
- 谷口 徹也(東光真和)

以上五名

「がんばって」という言葉



副会長

猫山 房良

昨年度末から、未曾有の新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行し、かつて誰もが経験したことのない状況が続いています。このような中で、市民委員会はもとより各町内会のあらゆる行事や活動が著しく制限されています。一日も早く、このコロナ禍が終息することを願って止みません。

各町内会世帯数・会員数		
花園	300	280
ひばり	155	131
東東光	150	127
北千代田	157	153
東明石山	208	200
5の北	161	80
真和	180	132
めぐみ	170	153
リバータウン	244	223
ハーブタウン北	183	175
ハーブタウン南	186	178
計	2,094	1,832

(令和2年5月1日現在)

市民委員会役員名

役員名	氏名	町内会名
会長	佐々木孝昭	北千代田
副会長	猫山 房良	真 和
副会長	山口 健	ハーブタウン北
会計	佐々木正行	東明石山
事務局長	先名 朗	花 園
同次長・社協事務局長	福家 尚	リバータウン
理事	長谷部 衛	東東光
理事	柏木 誠一	ひばり
理事	高橋 重治	5の北
理事	堀 秀司	めぐみ
理事	津田 和則	ハーブタウン南
監査	渋谷 満	めぐみ
監査	橋本 敏昭	花 園

さて、私は以前ある先輩の女性から「あまり『がんばって』と言わないでください。もうこれ以上がんばりようがないので」と言われたことがあります。実は、私たちは「がんばって」という言葉を使わない日はないでしょう。「がんばって」と伝える相手が心身共に健康で、それに応えられる余力がある人にとっては最高の賛辞になります。反面、内に向かつて葛藤している人にとっては、これほど苦しい言葉はありません。

現在のコロナ禍で、この感染防止に昼夜問わず献身的にご尽力いただいている医療関係従事者等には、私は決して「がんばって」とは言えません。

ともに歩む青少年育成部を目指して



青少年育成部長

橋田 弘昭

新年あけましておめでとうございます。いつも東部東光市民委員会青少年育成部の活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

昨年は新型コロナウイルスの影響で、行動が制限され様々な行事が中止になるなど、地域の子ども達をはじめみなさんにお会いする機会が少な

専門部長名	氏名	町内会名
広報部長	片桐 朗博	東東光
交通部長	山本代四雄	リバータウン
青少年育成部長	橋田 弘昭	リバータウン
女性部長	中野 幸	リバータウン
火防・防犯部長	町田 清	東明石山
環境衛生部長	萩原 和彦	ひばり
福祉部長	安藤 秀信	リバータウン
文化部長	梅田 友一	ハーブタウン南

東部東光地区民生委員児童委員協議会	
花 園	井手 幸恵
ひばり	中山みち子
東東光	木滑 繁
北千代田	佐々木孝昭
東明石山	蒸原久美子
5の北	高橋 重治(副会長)
真 和	猫山 房良(会長)
めぐみ	舟橋 治
リバータウン	福家 尚
ハーブタウン北	小西 久子
ハーブタウン南	瀬尾 祐二
東東光	浅利 律子(主任児童委)
リバータウン	橋田 弘昭(主任児童委)

り、大変残念に思っています。

平成二十一年の役員就任以来、毎年開催されておりました「ふれあいフェスタ」では、夏の爽やかな日差しの中、縁日遊びやスポーツゲームに例年二百人を超える子ども達に参加をしていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。また、美化活動の一環として橋脚を塗りなおしたり、小中学校と連携した体制をとるなど、身近な活動を行えたことも大変ありがたく思っています。

今はマスクを着用し、密を避けるなどの感染対策を心がけて過ごす日々となりますが、またいつの日か皆様が集まって笑い合える日常が戻ってくることを信じて、今後も地域に寄り添った青少年育成部となりま

すよう尽力して参ります。

今年度は、コロナ禍により、市民委員会の行事を自粛させていただきましたので、各町内会の活動状況等をお知らせいたします。

■東光花園町内会

今年度の東光花園町内会の活動状況は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、多くの行事を自粛しなければならぬことでした。特に、町内会の皆さんの親睦と青少年育成を図る夏休みラジオ体操、納涼会、観楓会、新年会を中止しなければならなかったことは、開催を楽しみにしていただけに残念でなりません。このような中にあっても、町内清掃、再生资源回収事業、街灯の整備、お年寄りの見守り活動や敬老会活動は、例年通り役員の皆さまのご尽力により行うことができました。新しい年を迎え、コロナ禍はまだ先が見通せない状況ではありますが、一日でも早い収束を願うところでです。



■東光ひばり町内会



まさかのコロナショックによる五輪延期となり、まさに激動と苦難の年となりました。現在も収束が見込めない状況がつづき、自粛傾向の中で引き続き警戒を緩めない行動が必要とされています。町内会の活動におきましては、以前から少子化、高齢化の影響もあり、イベントの自粛や省略化を図っているところです。しかしながら、その一方で、将来を担う子供達の見守りは引き続き強化が必要です。又、高齢者の安否にも心配りが不可欠です。これまで同様、町内一丸となり、皆さんの協力や助け合いを宜しくお願い致します。

■東東光町内会



町内会役員改選に於いて、会長の重責を担うこととなりました。折しもコロナウイルス感染症が徐々に拡大し始めた頃でしたが、現在では更に行動自粛等生活様式の変化を求められる中、令和三年を迎えました。何かと不自由な毎日をお過ごしのことと思います。

東東光町内会は、昭和四十六年一月一日に十八世帯をもって千代田一の北町内会より分離して発足しました。昨年創立五十年の記念の年を迎えることができました。現在会員数は十九名増えて百四十一名となりました。

会員の皆様のご理解とご協力、そして歴代の役員の方々のご尽力に厚く御礼申し上げます。コロナ感染症の影響により、当初予定していましたすべての行事は残念ながら中止とさせていただきます。一日も早い収束を願い、再び会員相互の交流の時が訪れるよう役員一同微力ながらお手伝いできればと思っています。

■北千代田町内会

年号が令和に代わり世界的に政治、感染症と今までに類を見ない世情となりました。大國アメリカの分断、コロナ感染症の拡大、大統領選挙の結末とあり得ないことが起きています。人の命より経済重視、また世界的な気候変動と未来に向かい暗雲が立ち込める感じがいたします。これからの時代、若い世代に何を残すかを考えた時、他人事ではなく風潮に流されず、一人でも悩まず声に出すことが大事だと思います。幸い旭川では、コロナ感染症の市中感染が安堵しました。個人での管理の徹底、外出自粛の意識が強く感じます。昨年の町内会行事は、五月十七日の役員、有志による東光十三条六丁目の花壇整備と花植えだけとなりました。



■東明石山町内会

今期事業年度開始から、コロナ騒動が始まり定期総会を始めとした殆どの行事、新年会、花壇清掃、盆踊り、子供神輿、パークゴルフ、観楓会等々を中止としました。不安な日々の中、何かできないかと考え、当時なかなか買うことのできなかったマスクをネットで購入し、七十七歳以上の皆様に福祉部長さんのお手伝いをいただき、お配りし、大変喜ばれました。集団での活動が自粛されていますので、花壇の清掃は、役員全員で終わらせました。また、今年度の予算の執行がほとんどできなかったため、町内会費の還元の意味で、各戸に二千円の商品券を配布いたしました。新年度は、繰越金が膨らんでいますので、四月から六月分の会費を不徴収とすることにいたしました。



■東光5の北町内会

本町内会では、道が示した感染防止対策「新北海道スタイル」を指針にして、当初事業計画の中から取捨選択して取り組んでいます。これまで役員会の開催は書面会議とし、主な事業では年三回実施の街路の花壇苗付け、管理、除草清掃の環境美化事業と、年四回の貴重な収入源の廃品回収事業を実施した一方で、例年参加者が多い「日帰り温泉レクリエーション」と「新年会」等はやむなく早々に中止決定しました。今後は、コロナ感染症の先行きが見通せない現状ですが、コロナウイルスに対して、「慣れない」「緩めない」「甘くない」ことを肝に銘じながら、一人ひとりが感染対策に取り組み、早期収束を願うばかりです。

■東光真和町内会

今年度の東光真和町内会は、新型コロナウイルス感染症防止のため、他の町内会と同様、多くの行事や活動を制限せざるを得ませんでした。
〈中止した事業〉

●総会、役員会、三役会議のほとんどを書面会議

●会員親睦交流会(二回)、新年会、女性部研修会、子ども花火大会(各戸へ花火を配布し親子で実施)、大人のためのラジオ体操などは中止
〈実施した主な事業〉

○再生資源回収(年六回)

○町内会報の発行(毎月一回)

○町内一斉清掃

○花壇や公園の維持・管理

○親睦パークゴルフ大会

○夏休みラジオ体操期間を短縮

※当町内にある真和公園には、多くの小学生や保育園児が、保育士や保護者や保育士の見守る中楽しく遊んでいました。



■東光めぐみ町内会

東光めぐみ町内会では新型コロナウイルス感染症拡大状況を受け、予定されていた「夏休みラジオ体操」や「めぐみ町内会夏祭り」等の子供たちを対象としたさまざまな行事の中止を決定しました。これらの行事を楽しみにされていた子どもたちも多かったことでしょう。

役員会ではそんな頑張っている子どもたちへ感染予防を徹底しながら、なにか応援できないか話し合い、クリスマスプレゼントとして図書カードを贈ることを決定しました。

さらに町内会未加入の集合住宅に住む子どもたちも対象としました。
配布日の十二月二十日(日)には堀会長をはじめ五人の役員で手分けして、「メリクリスマス!」と言いながらプレゼントをお届けしました。皆さん大喜びされ、厳寒期の取り組みではありましたが寒さを忘れるぐらい気持ちが暖かくなりました。



■リバータウン町内会

この一年は、新型コロナウイルスのため、公園清掃、焼き肉、ラジオ体操、新年会などを中止しなければなりません。楽しみにしていた方もたくさんいらっしゃったと思いますが、大変残念でした。

役員さん、班長さん、会員さんは日常的な業務に粛々と取り組んでいただきました。回覧板の取組、街灯やゴミステーションの管理、再生資源回収、交通安全や見守り活動などの取組です。福祉部のパークゴルフ例会は、屋外の行事でもあり、各チーム三、四人ずつで回るといことから感染防止の対策を取りながら開催し、楽しんでいただきました。新年度、願わくはコロナが終息し、みんなで集まる機会を大切にして、楽しく豊かな地域のつながりを実現していきたいと思えます。



■東光ハーフトウン北町内会

今年度の町内会活動は、他の町内会同様、新型コロナウイルスの感染防止のため飲食を伴う大きな行事はすべて中止になり、会長就任一年目にしてとんでもない状況になってしまいました。そんな状況下でも密を避けた野外での活動は何かか実施しようというところで、子供を対象とした『ラジオ体操』と『花火大会』、それから三回の『花壇整備とバス道路の雑草抜き』を行うことができました。特に子供の行事は密になりやすい面もありましたので、十分注意して実施し、花火大会の奇麗な光は町内会活動にほんの少しの光が差したように思いました。

来年度はコロナウイルスの収束を願い、避けていた密を逆に一層深めていける活動ができることを期待したいと思います。



■東光ハーフトウン南町内会

東光ハーフトウン南町内会は、四月の町内会総会以降、緊急事態宣言など状況悪化に伴い、役員会などを紙上会議とするなどして、具体的な活動を進めてきました。

各部の行事や事業も、「密」を防ぐよう活動方法を工夫してきましたが、町内会最大の行事である「ジンギスカンパーティー」を始め、「夏休みラジオ体操」「町内会新年会」を中止せざるを得なかったことは、いかに感染防止とは言え、会員の絆を深める場が失われたことが大いに悔やまれます。

そうした中でも、班長さん役員の皆さんの日常活動、古紙回収や町内清掃、町内花壇、花の街づくり、敬老のお祝いなどが例年通り実施できたこと、更には老朽化したゴミステーションの補修、ペンキ塗り作業が実施できたことは、町内会員の皆様のご協力のお陰と感謝しつつ、絆の確かさを感じております。

新年度こそは、この状況が好転し、いつもの町内活動が戻ることを祈っています。

○ふれあいサロンどんぐりの会

概ね七十五歳以上の方を対象に、繋がりと交流を深める目的で、二つのボランティアグループが協力して活動しています。

しかしながら、今年度においては新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、活動を行うことができませんでした。高齢者を対象とした事業のため、罹患することのリスクを考慮したためです。次年度においては、活動方法等を考えてみたいと思えます。

○広報誌の発行

この広報誌は市民委員会との共編で、市民委員会費の一部と赤い羽根共同募金からの助成と合わせた予算で、年一回発行しています。

編集後記

今年度は市民委員会の活動を自粛したことから殆どの行事を中止せざるを得ませんでした。コロナ収束と通常の活動ができますように。コロナ禍だからこそ、町内会同士の連携を密にして、情報の共有を図りたいものです。